第2学年便り
12月号

明日へ

南犬飼生中学校
R3,12, 1

「分からない人の痛み、でもわかりたいと思う」

今年も最後の月に入りました。全体として落ち着いた雰囲気の中で授業や諸活動が行われていると思います。学校生活が落ち着いてくるとすべてが良い方向に進んでいきます。一人一人、今学期の目標である思いやり算を継続してください。

さて、学校では給食週間や読書週間などいろいろな強調週間がありますが、１２月３日～１０日は人権週間です。人間関係から人権、思いやり算に関して考えてみたいと思います。

NHKの連続テレビ小説「お帰りモネ」が終了しました。ヒロインは東日本大震災が起きた時、地元宮城・気仙沼にいなかったことに悩みながら生活しています。「お姉ちゃん、津波みてないもんね」ヒロインの「モネ」こと永浦百音は15歳だった震災発生時に用があって自宅がある島を離れ、仙台にいました。その後、島で津波を見た妹にこう言われました。島にいなかった罪悪感を胸に抱えながら、いったんは東京で気象予報士として働き、現在は故郷に戻り、気象の仕事を続けています。

脚本を書いた安達奈緒子さんは、震災による「事実」を「想像」によって物語を変容させることが許されるのかという問題に直面しました。

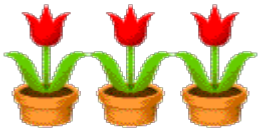
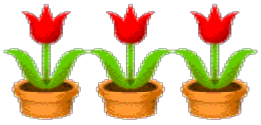
宮城に足を運び、様々な人に話を聞くと、人によっても土地によっても、受けた影響や抱える痛みがまったく違ったそうです。その中で「間違いない」と思えたことがただ一つありました。「人の痛みは、その人しか絶対にわからないということでした。」あまりに、単純な思考ですが、ここをよりどころにしていくしか方法がないと考えました。

劇中で、宮城に通う東京の医師、菅波が、被災経験に悩むモネに気持ちを伝える場面があります。「あなたの痛みは僕にはわかりません。でもわかりたいと思っています」

安藤さんは当事者とそうでない者の間に一線が引かれたら、お互いがわかり合いたいと手を伸ばしても、触れ合うことが許されない寂しい関係になってしまうと感じたそうです。この寂しさを超える行動は何かを考えて、たどり着いたセリフだったそうです。

「わたしにはわからない。この事実は変えることはできない。けれどわたしは心から、あなたのことを分かりたいと思っている」と伝えられたら、相手を尊重している姿勢は示せるし、わかりあえない者同士でも一緒に生きていくことはできるのではないか、そこに救いを求めたのだと思います。

「人権」それは文字のとおり、「人」としての「権利」です。誰もが、生まれながらの「権利」です。誰もが、生まれながらにして備えている権利のことです。ところが、その権利を侵害する行為が時として起こります。また、誤解が生まれます。2学期の目標は思いやり算です。今回は人間関係の視点から人権、思いやり算について考えてみました。

主任　福原　亨

１２月の行事予定	お知らせ・お願い
３日（金）夢と志講演会 ３日（金）～１０日（金）人権週間 １０日（金）クエストプレゼン発表会 １７日（金）生徒会立会演説会・投票 ２４日（金）２学期終業式 ２５日（土）冬季休業～1月１０日（月） 1月11日(火）3学期始業式	●日没が早まっています。今後も一層交通ルールを守るとともに十分注意して登下校してください。 ●２学期も最後の月です。風邪やインフルエンザが蔓延します。うがい手洗い・マスクの着用・予防接種をお願いします。 ●学期末です。私物の整理整頓をしましょう。自分の身のまわりを確認してください。私物はすべて持ち帰りです。計画的に持ち帰りましょう。